

水田を活用した農業振興を



渡辺 俊彦



町長

戦略作物の生産推進で水田を活用



水田活用を推進する施策の充実を

質問 国は平成30年度から米の生産数量目標の配分（生産調整）を廃止するが、町の取り組みはあるか。

答弁 町長 生産数量目標配分が廃止されれば、過剰生産となり米価が下落することも懸念される。

群馬県農業再生協議会では生産目標配分を継続し、市町村再生協議会に配分することとなった。当町協議会においても農家に数量を配分する。

また、国が進める飼料用米や米粉用米などの戦略作物の生産を推進し、農家に国の交付金が交付されるよう支援していく。町独自の助成は考えていないが、農業機械の導入補助などは引き続き行っていきたい。

東京圏から若者層・シニア層を町へ呼び込め

質問 町の紹介や移住促進の成果と予定はどうか。

答弁 町長 玉村町紹介パンフレットは「住む」「学ぶ」「食べる」「遊ぶ」「癒す」の5つの視点で「ちようどいい田舎暮らし たまむら町」をアピールし、12月中旬に完成予定である。5000部作成し、東京圏へ配布する計画だ。

東京銀座「ぐんまちゃん家」では、4月から5月に「たまむらまちカフェ」を開催し、DVDにより花火大会の紹介をした。また、サロン・ド・G（※1）を行い、参加した旅行者等に玉

村町に関する情報提供やPRを行った。パンフレット等も活用しながら、移住・定住を促していきたい。

平成30年度予算編成の重点事業は

質問 重点を置く事業は何か。

答弁 町長 「財政健全化」と「人口減少対策」を2本柱とし、定住・移住促進や優良企業誘致など、未来へつながる事業を考えている。

質問 利根川新橋建設やスマートIC周辺開発のための予算はどうか。

答弁 町長 未来への投資につながる事業なので、実現に向け一層推進していきたいと考えている。

こんな質問もしています

・選挙の投票率について

※1「サロン・ド・Gとは」群馬県内の市町村が東京圏の旅行会社やメディアに情報発信やPRする場

子ども議会の継続を求める



石川 眞男



教育長

来年度以降も継続したい



町の未来を子どもたちの言葉で

質問 若者の政治意識、投票行動を鍛える観点から、町制施行60周年記念事業として、この夏に実施した子ども議会は意義があると感じた。今後も継続する考えはあるか。

答弁 教育長 「未来の玉村町をよりよくするために」のスローガンのもと、子どもたちは町の課題について自分の言葉で質問し、関係各課の課長は真剣に答弁していた。

子どもたちは、他人事のように感じていた議会や町の取り組みを身近に感じることができた。子ども議会をさらに工夫・改善し、来年度以降も継続したい。

有期雇用から無期雇用への転換を図れ

質問 労働契約法の改正により、5年を超える雇用契約は、労働者の申し込みにより無期労働契約に転換できるようになった。

平成30年4月から適用されるケースが生じるが、この改正を使用者・労働者へ周知し、相談窓口対応を強化せよ。

答弁 町長 支援策や相談窓口情報の周知を国の機関と連携し、ホームページに掲載するなど広報活動に取り組む。

質問 地方公務員法等の改正を機に、臨時・嘱託職員の待遇改善を求める。

答弁 町長 国からの情報を参考にしながら総合的に判

断し、処遇改善に努めていければと考えている。

JAしばね支店跡地取得の進捗状況は

質問 JAしばね支店跡地取得について、どのような進捗状況にあるか。

答弁 町長 さまざまな可能性を検討してきたが、多額の費用を投入することが想定され、町の財政状況を勘案すると有効活用策が見い出せていない。

こんな質問もしています

・町内道路に関する要望とそれへの対応について